

第12回 海外研修
後編

十月三十一日〜十一月五日に、情報労連九州ブロックの「第十二回海外研修」が開催された。研修先は、ベトナム社会主義共和国で、コムウェア九州分会から、中村寛子さんが参加した。
(前編では、ツーズー病院、チクの地下トンネル訪問を紹介した)



次に「戦争証跡博物館」を訪ねました。この博物館は、ベトナム戦争に関する写真や保管物を展示してありました。米軍の残酷な虐殺や破壊行為の写真、枯葉剤の影響で生まれた子どもたちについての説明など、目を背けたくなるような展示物もありベトナム戦争の傷跡をそのまま残してありました。
また、館長の話や聞く機会があり、
・当時のアメリカ人とベトナム人との交流があり、許し合う関係が築けていること。
・枯葉剤の被害が推定二〇〇万〜四〇〇万人にも及ぶ被害となっており、ベトナムの経済力(月収平均二万〜三万)では自分自身が枯葉剤に感染しているか精密検査するこ

とができずに子どもを生んでしまったため、まだまだ被害はとどまらず三代目から五代目まで続いてしまうこと。
・日本人はベトナム戦争へ関心が高く援助が多く感謝していること。
・八月十日は「ベトナム枯葉剤被害者支援の日」で「被害者の会」を行なっており、一〇〇人ぐらいの子どもたちと触れ合うことができるので、ぜひ日本の皆さんも被害者の会に参加してほしいとのこと。
とお願いも含め色々なお話を聞かせて頂きました。
最後に「ゴーパープ支援施設」を訪ねました。この施設は枯葉剤の影響で障



が障



害を持ってしまった子どもたちの支援施設です。私たちが訪問した時、シンガポールの高校生が子どもたちの誕生会を行うため訪問していました。子どもたちは楽しそうに歌やダンスを披露していました。この施設にいる子どもたちの親は、子どもの悲惨な姿を見たくはないのか、二度と会いに来ないそうです。親の愛情を感じる事ができないのかと胸が詰まる思いでした。
本研修を通して、現地ではか感じる事ができない体験をさせて頂き

ました。
今後とも平和活動に関心をもち、学んだことを生かして行きたいと思えます。
(中村)



私のBS部 N・Yさん 私の初育児

昨年、初めての子供が生まれ、今は子供中心の生活になっています。初めての事だらけで右も左も上も下も分からない状態でしたが、周りの方々のお話や、本等の情報で何とか頑張っています。
育児生活をするにあたって私が気が付いたのが、育児、家事が母親中心にならないようにする事です。日中は私が仕事の為、奥さんに任せるのは仕方ないですが、夜や週末は役割を話し合い、負担が掛からないようにしています。元々私が家事好きなのもあり、お互いに無理なく過ごしています。
育児を始めてまだ日が浅いですが子供の日々の成長に驚かされるばかりです。子供だけでなく、私自身も父親として夫として成長していけたら良いなと思っています。